

会議記録

会議名	第7回 杉並区教育振興基本計画審議会
日時	令和3年6月25日(金) 午後6時00分～午後8時08分
場所	杉並区役所 中棟5階 第3・4委員会室
出席者	<p>委員 牧野、小国、大津、加藤、片山、小早川、渋谷、西山、増田、松野、大竹、河邊、松浦</p> <p>区側 教育長、教育委員会事務局次長、教育政策担当部長（教育人事企画課長事務取扱）、学校整備担当部長、中央図書館長（教育委員会事務局生涯学習担当部長兼務）、庶務課長、学務課長、特別支援教育課長（就学前教育支援センター所長兼務）、学校支援課長、副参事（子どもの居場所づくり担当）（子ども家庭部子どもの居場所づくり担当課長兼務、子ども家庭部学童クラブ整備担当課長兼務）、学校整備課長、学校整備担当課長、生涯学習推進課長、済美教育センター所長、済美教育センター統括指導主事（佐藤、加藤）、済美教育センター教育相談担当課長、中央図書館次長</p>
配布資料	<p>43 第7回杉並区教育振興基本計画審議会席次表 44 第7回杉並区教育振興基本計画審議会区側出席者名簿 45 第6回杉並区教育振興基本計画審議会における委員意見の概要 46 杉並区教育ビジョン2022（案） ー 答申（案）（追加配布資料）</p> <p>参考資料1 杉並区基本構想（答申案）（杉並区基本構想審議会） 参考資料2 杉並区基本構想（答申案）参考資料</p>
会議次第	<p>1 開会 2 資料説明 3 議事 (1) 杉並区教育ビジョン2022（案）について (2) 杉並区教育ビジョン2022（案）に関する意見交換 (3) 答申（案）について 4 審議会答申 5 教育長挨拶 6 閉会</p>

○会長 それでは、定刻になりましたので、これから審議会を開催したいと思います。

緊急事態宣言が解除になって、まん延防止等特別措置になったわけですがけれども、人流が増えてきて少しリバウンドがあるような感じになってきています。さらに、何となくだんだん日本も亜熱帯になってきたような感じになってきていまして、毎日雨が降って、梅雨でもあるわけですがけれども、あまり気分が晴れないような感じになっておりますけれども、今日は最後の審議会になりますので、ぜひとも皆さんからの、最後感想等も含めていろいろお話をいただいた上で、最後出来上がったものを教育委員会にお渡しをしたいと思いますので、ぜひともどうぞよろしくお願いいたします。

今日の会議ですが、大竹委員と河邊委員のお二人がオンラインでの参加になりますので、ここに映っておりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

それから、ようやく今日からファイルが共有できるようになったということなので、また後からお渡しをしたいと思います。よろしくお願いいたします。

あと、傍聴の方々から今日は録音と撮影のお申出はないということですので、なしで行いたいと思います。

それから、最後の審議会になりますので、事務局から会場の様子を写真撮影することと、最後、このビジョンをお渡しした後で集合写真、記念写真を撮りたいということですので、そのこともどうぞご了承ください。お願いいたします。

この間の経緯ですがけれども、前回の審議会以降、5月27日の審議会で審議内容を踏まえて修正をし、幾度か事務局との間でやり取りをしてきて、ようやく現在のこのような形にまとまりましたので、6月18日に皆さんにこの最終修正案をお送りしたということになります。そして、21日締切で、皆さんのほうでご確認と、ご意見をいただいたという形になります。

今日の議題ですが、最終的なこのビジョン案に関しまして、皆さんから改めてご意見をいただきましたので、そのご意見について確認をさせていただき、その上で、もし修正等が必要であれば修正をさせていただいた上で、最終的に審議会として答申をしたいと考えております。いただいたご意見に基づいてまたご発言等をお願いするかもしれませんが、そのときにはよろしくお願いをいたします。よろしいでしょうか。

最終的には、今日はもうこれで最後ですから、答申のビジョンを教育委員会教育長にお渡しをするということを最終的な目標にしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

では、最初に本日の会議の資料の確認と説明を事務局からお願いをいたします。

○庶務課長 それでは、資料の確認と説明をさせていただきます。資料の送付がまた直前になってしまいまして、誠に申し訳ございませんでした。

本日の資料ですが、次第、資料43が本日の席次表、資料44は区側出席者の名簿、資料45は、前回、第6回審議会で委員の皆様からいただきましたご意見の概要でございます。資料46は「杉並区教育ビジョン2022（案）」とさせていただきます。

参考資料として「杉並区基本構想（答申案）」を添付してございます。このたび基本構想の答申案がまとまり、現在パブリックコメントがなされているところでございます。大竹先生、牧野先生にはこの基本構想審議会の委員として教育ビジョンとの整合性を図りながら進めていただいているところでございます。

基本構想は、防災、防犯、まちづくりなど、8つの分野ごとの将来像と取組の方向性が示されておりまして、教育に関する理念としまして、学びと文化、スポーツの分野が関連しているところがございますので、今回参考資料としてつけさせていただきます。

それでは、資料46、「杉並区教育ビジョン2022（案）」を御覧ください。前回での審議会でのご意見等を踏まえまして、会長と調整させていただきまして、修正したものがこちらの資料46となっております。なお、先日修正案としてご確認いただいたものからの変更はございません。

前回の審議会からの主な修正点としましては、まず、1ページから2ページの「教育ビジョン2022の策定について」、原案では（1）から（5）としていましたが、（1）「策定趣旨」から、（5）「推進に向けて」としておりましたが、（4）の「計画の位置付け」と（5）の「推進に向けて」を統合して、「計画の位置付け」として整理してございます。

3ページ、Iの「私たちが大切にしたい教育」のフレーズは3つの案がございましたが、検討結果としまして、「みんなのしあわせを創る杉並の教育」として、文章もこれに合わせて整理してございます。

4 ページが「誰もが社会の創り手となる」を「誰もが社会の創り手として生きる」、これは他の2つの項目に合わせて語尾を「生きる」として整理してごさいます。

5 ページが、Ⅱの「一人ひとりが教育の当事者となるための視点」としていたところを「一人ひとりが教育の当事者として心がける視点」という表現に修正してごさいます。

5 ページ、6 ページ、Ⅱの4、5につきましては、前回の検討といたしまして、4の「社会を創る当事者として考える」、5の「学びの成果を分かち合う」を入れ替えまして、文言を整理してごさいます。入れ替え後の4を「学びの成果を分かち合う」から「学びの成果を贈り合う」に修正してごさいます。

その他、より分かりやすい表現にという趣旨で、全体を通して文言整理を行ってごさいます。

私からの説明は以上でごさいます。

○会長 どうもありがとうございました。

それでは、これから議事に入りたいと思います。今日の目標ですけれども、何度も申し上げますが、今ご説明がありました資料46の「杉並区教育ビジョン2022（案）」の最終確定をしたいということです。そして、委員の皆さんのほうで合意がなされましたら、この「（案）」が取れることとなります。それを答申として、教育委員会にお渡しをしたいと思います。その後、皆さんのほうからこの間の感想ですとか、それから、今後、教育推進計画を作っていきますので、それについてのご意見等がありましたらお伺いをしたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、前回の審議会以降、皆さんにお渡しをして、そして寄せられた意見が幾つかありますので、それを簡単にご説明をしたいと思います。

最初に3ページを御覧いただけますでしょうか。資料46の3ページになります。ここの、本文の上から2行目の一番最後のところ「『ありがとう』という言葉を通して」という一文が入っています。わかりますでしょうか。3ページの本文の上から2行目の一番最後のところです。「みんなのしあわせを創る杉並の教育」の次のところですが、「人は誰もが、しあわせになりたいという願いをもっています」の次です。「自分が描いていた夢や目標に向かって努力し続けることや、そこで得た

成果を他者と共有したり、『ありがとう』という言葉を通して誰かの役に立っていることを実感したりすることによって」という言葉があります。もともとは「共有したり誰かの役に立っていることを実感したりすることによって」という表現だったかと思いますが、ここに「『ありがとう』という言葉を通して」という文言が入っています。

これに関しまして、実はこの段落の一番最後の区民アンケートのところで、子どもたちから最も多く寄せられた言葉が「うれしくてがんばろうと思える一言」が「ありがとう」でしたという言葉が入っているので、重複になってしまうし、最後の「ありがとう」というところがあるので分かるのではないかというご指摘がありました。この点で、最初の「ありがとう」のところを削除するかしないかということについて、少し皆さんのお考えをお聞きしたいと思います。

それから、4ページになりますけれども、「学びのつながり」という言葉が入っていますけれども、そのところで、「多様で新たな学びのつながりが生まれることにより」という表現が入っています。一番最初のひし形の「学び合い、信頼をつくり、共に生きる」という部分の本文ですけれども、その下から3行目です。「学び合い、教え合いの中で、多様で新たな学びのつながりが生まれることにより」という表現がありますけれども、ここも強いご意見ではないということなのですが、「多様で新たな学びの世界」というようなもの、または「世界観が生まれることにより」というふうにしたらどうかというご提案がありました。これについて、また委員の皆さんからご意見があれば伺いたいと思います。

あと、4ページ、5ページ、さらに7ページに関わる問題なのですが、これは言葉の問題ですけれども、今回このビジョンの中に「おくり合う」という言葉がたくさん使われています。それはいわゆる贈呈の「贈」、プレゼントをするという「贈」なのか、または送っていくといいますが、いわゆる「送」のほうか、またはその両方の意味を込めて平仮名で「おくる」という表現を使ったりしている箇所なのか、とさまざまです。例えば、5ページの一番最後の4の「学びの成果を贈り合う」というときの「贈り」というのは、単に渡していくというよりは、プレゼントみたいな形で、贈呈するといいますが、誰かにあげるといいますが、贈っていくという、それこそプレゼントするという意味を込めて、ここでは漢字の「贈り」が使われているわけですけれども、そうでない場所もあるのですね。それで、この辺りで、統一する必

要はないだろうかというご意見があって、どうしようかと思うのですけれども、この辺りいかがでしょうか。

大きくはこの3つのご意見をいただいています、あとは皆さんからも何となくまとまってきたのではないかと、きっちりまとまってきたのではないかとというご意見をいただいています、最終的にはこれで大丈夫だろうということでした。そこで、これから、この3つの点について少し皆さんから、お考えですとか、ご意見がありましたらいただいて、修正をするということであれば修正をした上で、改めて事務局からまた、この会議中に直して持ってこられるということですので、修正をして皆さんにお示しし、最終的に確定したものを教育長へお渡しをしたいと思えます。いかがでしょうか。ご意見ありますでしょうか。

最初に、この「ありがとう」という言葉に関してですが、いかがでしょうか。3ページの第1段落のところですか。ちょっとこの言葉を入れた気持ちといいますか、趣旨を補足しますと、「自分が描いた夢や目標に向かって努力し続けることや、そこで得た成果を他者と共有したり、誰かの役に立っていることを実感したりすることによって」ということで、意味が通じるのかなと思ったのですが、よく言われますのが、やって、人から「ありがとう」と言われると、役に立っていると思えるということをより強く実感できるということになるのではないかと。そしてそれがさらに次の「うれしくて頑張ろうと思える一言」が「ありがとう」だとつながるとよいかと思っていて、事務局とご相談しながら入れさせていただいたのですが、その辺りでご意見がもしあれば、いただきたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。

多分、次に「ありがとう」があるので、あえてここで入れなくても重複をしているしというご意見だと思うのですが、逆に言えば、下のほうのインパクトが弱まってしまわないか。頑張ろうと思える一言が「ありがとう」だというのが先に出てしまっていると、ちょっと下のほうがインパクトがというようなご懸念もあってご提案があったかと思えますけれども、いかがでしょうか。

●●委員、お願いいたします。

○委員 私も、最初にこちらを読ませていただいて、やはり読んでいながら「ありがとう」という言葉があることによって、子どもたちが学んでいる風景が頭の中に思い描けたのです。その後で、うれしくて頑張ろうと思える言葉はありがとうでしたという結びにつながっていくと思うので、私個人的にはあったほうがいいのか

など感じました。以上です。

○会長 ありがとうございます。では、●●委員、お願いできますでしょうか。

○委員 事前に意見を申し上げていなくて申し訳ありませんでしたけれども、まず全体の感想から言わせていただくと、とてもすっきりして、そしてとても温かい文章が並んでいていいなと思いました。

この「ありがとう」なのですけれども、反対の意見で申し訳ないのですけれども、私はここは「ありがとう」という言葉以外でも実感できることはあるので、ここは取ったほうがいいかなと感じています。

ですけれども、ここを取ってしまうと区民アンケートとのつながりが悪くなってしまうので、「区民アンケートにおいて」という前に何か一文か、この後ろに一文、具体的にこういう「ありがとう」のことで子どもたちは役に立っていることを実感しますみたいな一文がないと、区民アンケートとのつながりが悪くなってしまうなと思っています。以上です。

○会長 ありがとうございます。ほかにご意見はありますでしょうか。両論という感じになりますけれども。●●委員、いかがですか。お願いいたします。

○委員 ここまで全体的に取りまとめでいただいて、本当にありがとうございます。

全体的なお話をさせていただくと、すっきりした印象もありますし、冒頭の入力から、現教育ビジョンを礎として、これまで積み重ねてきたことを大切にして今回の教育ビジョンがあるのだよというところを十分打ち出していただいたので、非常にありがたいなと思っています。

それから、アンケートをうまく引用していただいた部分がかなり入っているので、この点もとてもよくて、子どもたちの思いが伝わってくるよねという感想を持っています。

それから、何回か会議の中でもお話ししましたがけれども、センス・オブ・ワンダーですとか、わくわく感ですとか、探求心だとか、自己肯定感みたいなことというのは言葉で入っているといいよなと思っていましたので、そこの部分も含めていただいたので、私の立場からすると非常にいい内容に仕上げていただいたなと思っています。

実は、この「ありがとう」について、皆さんでご議論していただきたいなと思ったのは私なのですけれども、ここはものすごく今回全体の中で大切な文節になって

くと思うのですね。

読んでみますと、少し長いかなという印象を受けた部分もあって、コンパクトにまとめたほうが、例えば小学生が受け止めたときにも理解しやすいのかなと思ったところが一つです。

ただ、ここの文章を組み立てていただく中で、学びとこういうふうに関わっていくと、人との関係が生まれ、誰かの役に立つことが、しあわせにつながるということを中心に思い描いていただいた上での文章ですので、これはこれで非常にありがたい、いい内容なのかなと思いました。

もう一点は、最後のほうまで読んでいくと、区民アンケートのところで、子どもたちの意見として「ありがとう」という言葉があって、そこは強調したいと思った文章であります。しかし、はじめの説明文の中に先出しで「ありがとう」という言葉が出てきてしまうと、結びの文章のインパクトが薄れてしまいもったいないかなと思ったのです。ざっくばらんに皆様のご意見をお聞きして、まとまってくればいいかなと思いました。以上です。

○会長 どうもありがとうございます。ほかにご意見ありますでしょうか。●●委員、お願いいたします。

○委員 このところ私はすごくいいなと思って受け止めました。というのは、最後の区民アンケートは「うれしくてがんばろうと思える一言」というまとめなのですが、ここは誰かの役に立っていることを実感するということがあって、この役に立っている実感というのは本当にキャリア教育そのものだとは僕は思うのです。ですから、ここでこういう大事なところを取り上げていただいたということで、私個人としてはすんなりと読み進められました。

あと、「ありがとう」だけではないでしょうと、確かにそうだなと思うので、ちょっとそれは長くなるからあまりお勧めではありませんが、「例えばありがとうという言葉」とか、そんなこともありかなと思いますけれども、私はこの原文に賛成です。

○会長 ありがとうございます。だんだん難しくなってきましたけれども、ほかにご意見ありますでしょうか。●●委員、お願いします。

○委員 まず、本当にすっきりと読みやすく、温かい文章になっていて、読んでいてとても気持ちが温かくなりました。

その中で、この部分を読んだときに、「ありがとう」というのがここに出てきたときには、おやっ、何でここで「ありがとう」が出てきたのかなと思ったのですが、最後に「うれしくてがんばろうと思える」言葉は「ありがとう」でしたと、その部分で、すっと心に落ちたので、最初の「ありがとう」で、おやっ、と思ったけれども、区民アンケートの結果が「ありがとう」だったというところをきちんと書いてくださっているので、この文章の流れでよろしいのではないかなと私は思いました。

○会長 ありがとうございます。ほかにご意見ありますでしょうか。●●委員、お願いいたします。

○委員 先にこちらを私も読ませていただいたときに、この最後の「区民アンケートにおいて」という部分はすごく印象に残って、ちゃんと区民の声を聞くという最初の頃から言っていたことがちゃんと実現されているなということを感じました。

●●委員と同じなのですけれども、最初に「『ありがとう』という言葉を通して」と急に出てきたけれども、最後のこの「区民アンケートにおいて」という、「『ありがとう』でした」というところはすごくぐっと来るというか、最初にあったのでここがすごく印象に残ったというのが私も最初の印象というか、個人的な意見なのですけれども、感じましたので、私もこれでいいのかなと。逆に、最初に来たことによって、最後のこの子どもたちの声というのがそうなのだとしてすごく感じたので、このままでいいなというのは思いました。以上です。

○会長 ありがとうございます。●●委員、お願いできますでしょうか。

○委員 全体的なところでは、本当に我々の思いの詰まった文案になっているのではないかなと思っています。また、基本構想の整合性というところでは、これは整合性が図られ、さらにこのビジョンの中では基本構想の具体的なイメージがこの中にしっかりと書かれているな、落とし込まれているなという感想を持ちました。

今、●●委員からもありましたように、この「ありがとう」というところでは、ここに「子どもたちから最も多く寄せられた」というところでは、やはり私たちは子どもたちの声に耳を傾けるというところで、ここにしっかりと「子どもたちから最も多く寄せられた」という文言があるので、このビジョンは我々委員だけではなくて、区民、そして子どもたちをあわせて作られたということが表現されて、大変いいのではないかと思います。以上でございます。

○会長 ありがとうございます。さあ、困りましたね。まだご意見のない方は、いかがですか。ご指名してもよろしいですか。

●●委員、いかがですか。今、目が合った感じがしたのですけれども。

○委員 私も最初に読ませていただいて、この区民アンケートで子どもたちから多く寄せられた「ありがとう」という、この部分が非常に強く印象に残りました。この部分の前段として、「『ありがとう』という言葉を通して」というところからのこの「ありがとう」というつながりは、とてもいいなと正直感じました。

○会長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょう。●●委員、いかがですか。

○委員 これは本当に文章の書き方の好みの問題だと思うので、私もここは、これでもいいと思うし、自分だったらどう書くかという、多分自分だったら、区民アンケートはこうだったというのを先に持ってきて、だからこれこれこうで「『ありがとう』という言葉を通して」と、文章の構成上は、自分だったらそう書くだろかなと思うのです。でも、別にこれでもいいし。

ただ、その次のパラグラフの「誰もが自分らしく生きることを大切にしながら」というところにつながるのであれば、その「区民アンケートにおいて」から「『ありがとう』でした」というこの一文が、ちょっと行ったり来たりしているという文章の流れの感覚は感じるので、自分だったらということを先ほどお話をさせていただきました。以上です。

○会長 ありがとうございます。●●委員、いかがでしょうか。

○委員 私はちょっと感覚が変わっているのであれなのですけれども、「そこで得た成果を他者と共有したり『ありがとう』という言葉を通して」というのが、区民アンケートで、そういう言葉を言われると子どもたちは、「ありがとう」という言葉が子どもたちにとってはうれしいというのがよく分かったのですけれども、逆に私は「ありがとう」という言葉を喜んでいたりしても言えない子たちが、もしいたときに、この子は「ありがとう」と言わないんだみたいな。せっかくやってあげているのに「ありがとう」と言わない人は感謝の気持ちがないのかな、みたいな感じに思われてしまって、それがすごく「自分らしく生きる」と言っている割には、「ありがとう」と言わないといけないんだ、みたいに、私はちょっと聞こえてしまって、「ありがとう」と言える人ばかりではないではないですか。喜んでいても、結構ピュアで、それかちょっと恥ずかしがり屋さんで、行動で逆に変えてあげると

いう子もいるし、強制的に「ありがとう」と言わないといけないものなのかというのが、そういう社会であればいいですけども、そういう方ばかりではないし、その辺が何か言っている割には強制なのだなと、読んでいて、私はそう感じました。

○会長 ありがとうございます。大事な観点だと思います。こういう言葉を入れることによって「ありがとう」と言わなければいけないんだみたいな議論になってしまっても困りますので、新しい観点というか、大事な観点ありがとうございます。

●●委員、いかがですか。

○委員 私としては、このままでいいかなと思っています。例えばということだと思うんですけども、誰かに役に立っているというのは「ありがとう」という言葉を通してだけではないと思うんですけども、その上で、エビデンスとしてちゃんとアンケートでこうだったというのはすごく説得力があるなと思いますので、構成としてはこのストーリーのままでいいのかなと思っています。

○会長 ありがとうございます。最後に副会長にお願いしようかと思っていたんですけども、実は「これは誰かの役に立っていることを実感したり」といったことと、もう一つは、認め合える関係にあるということをどこかに入れたいような思いもあったのです。それで「ありがとう」という言葉を事務局と相談しながら入れてみたんですけども、「『ありがとう』という言葉を通して」ということではなくて、もしほかの言葉に置き換えることができるのであれば、何かいい言葉があればご提案が、とは思っています。

さらに、例えば「ありがとう」と言えなくても、恥ずかしくて言えなくても、感謝しているという気持ちが伝わるというようなことでもしあれば、何かその辺りでいい表現があればと思ったのですけれども、何かご提案とかご意見のようなものがありますでしょうか。

副会長に回していいですか。

○副会長 ●●委員がおっしゃったことを聞いて、正直言ってちょっとよく分からなくなったところもありまして、これは「みんなのしあわせを創る」ということなので、多分だからそこを強調しようとする、本来は「自分が描いた夢」を描くとか、「そこで得た成果を他者と共有」というのと、「誰かの役に立っていることを実感する」という3つが並列されていながら、最後に重きを置いて強調するというのもあって「『ありがとう』という言葉」という具体的なものが例示される

ことによって、みんなのしあわせに役立つということが一番大切なのだよという価値を暗に付け加えているのだと思うのですが、●●委員がおっしゃったことは、確かにそれは気がかりだなという。やっぱりニューカマーの子とかいろいろな文化の子たちが学校にも町にもといったときに、恐らく表明の仕方はいろいろなことがあり得る、それを想定しなければいけないと考えると、そうですよね。

だから、そうなってくると、子どもたちから最も多く寄せられるということ自体がマジョリティの価値になるので、そこはだから説得力があるような、ないような話に今度はなっていくという難しさがあるのだなと。

例えばどうですかね。「ありがとう」という。気持ちを伝えるといっても、やっぱりそうですよね。そうすると、もしかしたら「『ありがとう』という言葉を通して」というのを取って、最後は例えば「区民アンケートにおいて」という形で例示にするということで、少し下げる手もあるのかなと思ったりもいたしますが、いかがでしょうか。

○会長 ●●委員、お願いいたします。

○委員 そういう意味ではそうですね。「『ありがとう』という言葉」というのが具体的あるいは個別的過ぎるところはあるのかもしれないので、例えば「感謝」という言葉。「ありがとう」という言葉ではないかもしれないし、それは言葉であったり、行動であったり、気持ちであったりするかもしれないので、もう少し一般的に書くのであれば、「感謝の言葉や行動を通して」、あるいはその行動にも起こせない場合もあるかもしれない、気持ちなのかもしれないですけども、具体的に言葉というよりは、もう少し感謝という概念に寄せて、ただ、感謝を通じて役立っていることを実感する。その意味の具体例として、後ろに「ありがとう」という形は、例えばいかがでしょうか。

○会長 いかかでしょうか。少し具体的なご提案があるとありがたいのですが、いかがでしょうか。お願いします。

○副会長 難しいのは、多分先生方がよく体験されていることなのだと思うのですが、突っ張っている子とか、ちょっと今しんどい状況にある子たちが、何かしてあげたときに、すごく何か抵抗したり、口ではひどいことを言うのだけれども、表情を見ているとこの子は自分のしたことを受け入れているなど感じ取るみたいなことも含めて、こういう議論で誰かの役に立つということは起きているのですよね。

だから、そういうフェーズで考えると、感謝の気持ちが必ずしも言葉や行動で伝えられないということも、実は結構多いのかなという気もしたりもするのです。

だから、最初「誰かの役に立っていることを実感したりすることによって」という、「『ありがとう』という言葉を通して」というのを取ってしまったほうが、かえってすっきりするのかなとは思いますが、いかがでしょうか。

区民アンケートも、例えばという形で、例示として出す。

○会長 ほかにご意見いかがでしょうか。

もう少し申し上げますと、例えば区民アンケートの「『うれしくてがんばろうと思える一言』は『ありがとう』でした」ということが、多分いろいろな読み方があると思うのですが、単にうれしいということだけではなくて、自分が認められているという感覚もここに入り込んでいるのでうれしいのだということになると思うのです。

そうであれば、もう少し今の文は「誰かの役に立っている」ということだけではなくて、例えばお互いに認め合えたという感覚みたいなものがそこに言葉として入るとか、何かがあるともう少し、一方的に「ありがとう」と言われるだとか、やってあげたのにということにはならないような表現にはなるかなと思うのですが。その辺り、いかがでしょうか。

●●委員、お願いします。

○委員 多分、言葉を決めていく、具体的な案を出していく段階だと思うので、どういう表現ができるかなというところなのですけれども。例えば「『ありがとう』という言葉を通して」というところは削除して、今のところは「誰かの役に立っていることを実感したりすることによって」という、この表現をこのまま行くのか、多分違うものに置き換えるのかということは今、会長はおっしゃっているのだと思うのですが、1つ候補としてあるのは、次の段落の2行目には「共に認め合いながら」みたいなところが出てくる、そこともつながることとして、お互いを認める経験、認め合う経験をすることによってとか、そっち側のニュアンスでこの文章を置き換えるという選択肢があると感じがします。1つの例ですけれども。

○会長 ●●委員のご提案も入れますと、例えば「『ありがとう』という言葉を通して」というのを取って、例えばそこで得た成果を他者と共有したり、認め合う関係を実感したり、感じたり、そういうようなことになって、あとは、誰かのために

役に立っていることを実感するというような表現になるのだろうかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

●●委員、お願いします。

○委員 皆さんが変えるということについて、私は異存ありませんけれども、この「ありがとう」は、何も子どもだけに言わせる言葉ではなくて、大人がもっともつと言わなければいけない言葉だと思うのです。

そういう観点で考えると、私はこのままでも別にそんな違和感はないと思っています。子どもに強制するとか何とかということではもちろん今の議論はありませんけれども、私は大人がもっとたくさん使っていい言葉だろうと思っているので、そういう意味ではこのままでもいいかなと思いますが。あとはお任せしたいと思いません。

○会長 ●●委員、お願いいたします。

○委員 私も、入れるとしたら、例えば「ありがとう」に限定するのではなくて、「例えば」というのを一つの例示として出すことによって、ほかにもいろいろな表現があるのだよということと、私は、この文章を読んだときに、「ありがとう」を言うのは大人だなと思ったのですね。

子ども同士が、もちろんそういう気持ちは大切だけれども、大人がやはり「ありがとう」という、そういう感謝の気持ちを子どもにかけることで、子どもたちが生きがいを感じて次につながっていくということなのだなと感じたので、私は、おっしゃったように、大人がたくさん言ってあげることがいいことなのだと思っ取ったので、「ありがとう」は入っていてもいいのではないかな。入れるとしたら、「例えば」という一文を入れるのが分かりやすいかなと感じました。

○会長 ありがとうございます。「例えば」と例示にするということですが、ほかにも何かご意見ありますでしょうか。

●●委員、お願いいたします。

○委員 今の●●委員のお話を伺って一つ思ったのは、その1段落目の最後の行、アンケートの「子どもたちから最も多く寄せられた『うれしくてがんばろうと思える一言』は『ありがとう』でした」というのは、これは理解としては、自分たちが言うのではなくて、言われるということですかね。だから、それは友達から言われるのかもしれないし、大人から言われるのかもしれないということですかね。そうい

う理解であれば、子どもたち自身がとかではなくて、大人がそういうふうに行っていくという理解ですので。

私も、個人的な意見としては、もとのままでいいかなと思いますし。「例えば」を入れるとしたら、それでぼやけてしまうので、なくてもいいかなぐらいな感じではあります。

ただ、最後のアンケートのところがちゃんと理解できましたので、ありがとうございます。

○会長 ありがとうございます。いかがでしょうか。

●●委員、お願いいたします。

○委員 皆さんからのご意見をお聞きして、感謝という言葉に置き換えてもいいのかなと一瞬思ったのですが、様々なご意見をお聞きした上で、改めてこのままでいいだろうと判断しました。

○会長 ありがとうございます。いかがでしょうか。特に●●委員からのご指摘で、そうだなと思った面もあるのですが、この辺り、皆さんのご意見いかがでしょうか。言わなければいけなくなってしまうのではないかというような、ある種、強制をしてしまう、自分らしい生き方を、と言っているのに強制されてしまうのですかみたいな、そういう受け止められ方をすると、本意ではないということになるかと思うのですね。その辺りで、皆さんのご意見いかがでしょうか。

副会長、いかがですか。

○副会長 ちょっとこれは事務局に教えていただきたいのですが、このアンケートの「『うれしくてがんばろうと思える一言』は『ありがとう』でした」というのは、大人から「ありがとう」と言われたいということですか。さっき●●委員がおっしゃったように、子どもからのというのも結構入っているのですか。

むしろ、私のしたい解釈としては、意外と子どもというのは大人から「ありがとう」と言われていなくて、やっぱり「ありがとう」と言われるとうれしいという、そういうメッセージとして読めるのであれば、大人からの「ありがとう」というのは、これは必要なこととして入れつつ。

だから、これはむしろ「『うれしくてがんばろうと思える一言』は大人からの『ありがとう』でした」みたいな、「大人からの」というのをここに入れたほうが、むしろメッセージとしては明確になるのかなと思ったりもするのですが、そういう

ことによろしいのでしょうか。

○庶務課長 アンケートでは、誰から言われてもうれしいと。

○副会長 ありがとうございます運動とか始まってしまうと嫌な感じですよ。

○会長 いかがでしょうか。「ありがとうございます」と声をかけてもらうとうれしいですよ。それから、「ありがとうございます」と言ってもらって役に立っていると思えるというような文脈ではあるのですけれども。何かしてあげたのに「ありがとうございます」と言わないじゃないか、みたいな、そうなるちょっとまずいわけですが。自分がいろいろなことをやっている中で、誰かから「ありがとうございます」と言われると役に立っているなど思えるということではあると思うのですけれども、その辺りで何か、いい表現ですか、またはこうしたらどうかというご意見がありましたら、いかがでしょうか。

●●委員、お願いいたします。

○委員 あまり意見を言っちゃうと皆さんと違う意見なのであれなのですけれども、私も聞いていて、大人から子どもに「ありがとうございます」と言われて、そもそも皆さんご夫婦で、奥さんとかに「ありがとうございます」とか言っていますかとまず思ったのですよ。夫婦関係の中、家庭の中で、ご主人から「ありがとうございます」とすごく言われた奥さんはすごく少ないと思うのですよ。当たり前のように家事をやったりとか、当たり前のようにされているみたいなね。

そういう中で、いきなり子どもに「ありがとうございます」と言う大人が、奥さんもそうだと思うのです。ご主人に「ありがとうございます」と言えているかということ、なかなか「いつも頑張って働いてくれてありがとうございます」とか、そういうことが家庭であふれていますかということ、あふれている家庭はなかなか難しいと思うのですよ、長くなればなるほど。新婚さんだったらあるかもしれないですよ。頑張っていてくれてありがとう、みたいな。それが、子どもに対して「ありがとうございます」と言っている家は、なかなか難しいと思います、大人から。主人にとか奥さんにも言えない家庭がある中で、子どもに「勉強頑張ってくれてありがとう」「健康に生きてくれてありがとう」「こんなんしてくれてありがとう」と、そういう家庭の中で言っているところも少ない中で、いきなりハードルが大人からの「ありがとうございます」みたいな、そんな当たり前前にみんなやっているのかと私めっちゃ思ったのですよ。

家庭で当たり前のようにやっているのやったら、社会に響くと思うのですよ。まず家庭の中でできていないようなことが、社会に響くのですかと私はちょっと思っ

ちゃって。

私は、単純に、子ども同士のクラスメイトの中で「やってくれてありがとう」みたいなことを想定してしまったので、家庭の中で皆さんできているのかなというのをちょっと一瞬思っちゃったのですよ。大人からの「ありがとう」というのは当たり前のように言われているから、皆さん、家庭の中でちゃんと奥さんとか、そういう周りの方に感謝のことを私は出しています、主人に。毎日「ありがとう」と言っています。だから、そういうことが皆さんにちゃんと響いているのかなという、その中で大人からというふうに結びつけるのはちょっと強引ではないですかと。また違う意見を言いました。ありがとうございます。

○会長 ありがとうございます。とても大事な観点だと思いますので、この辺りで皆さん、いかがでしょうか。●●委員、お願いいたします。

○委員 いろいろ聞くとすごい考えがあっちに行ったりこっちに行ったりしてしまうのですけれども、私は、この「ありがとう」、最初のまま派なのですけれども、自分がこれを読んだときに、「子どもたちから最も多く寄せられた『うれしくてがんばろうと思える一言』は『ありがとう』でした」といったときに、はっと思って、自分の子にも「ありがとう」と言ってあげようと素直に思えたのですね。それでいいのではないのかなと私は思って、これを読んだ人たちが、ここにはっとして、そうか、ありがとうでいいんだ、とむしろ私は思ったのですよ。

このアンケートで「ありがとう」が一番多かったということは、多分あまり言われていないというのものもあるし、言われてうれしいという子たちと、言われたいという子たちの思いもあってのこの一番多かったのかなというのがあって、だから、あえて大人からの「ありがとう」というのも特に要らないのかなというのものもあるし、読んだ方がそうなんだと思って、素直に「ありがとう」と言ってあげたらうれしいんだという人が一人でも多く増えたらいいのかなというのと、自分もこれは、誰に。子どもたちからと書いてあるけれども、子どもだけにかかわらず、「ありがとう」ってすごい力があるんだなというのを改めて実感したというのも、最初に読んで感じたので、もうちょっとシンプルに考えてもいいのかなと。

いろいろと考え込んでしまうと、皆様知識がすごいのと、いろいろな分野の方がいるのでいろいろな方向から考えてしまって、多分ここで時間が終わってしまいそうぐらい考えられると思うのですけれども、私みたいに本当に知識なく、一保護

者がこれを見たとき、すっと入ってきたのですね。区民アンケート、子どもたちの声を聞いてくれている。子どもたちはこう思っているんだと、「ありがとう」でいいんだと。そうしたら「ありがとう」と言ってあげようと、それは別に「ありがとう」と大人から言われたら、言われた子どもたちも今度それを見て、「ありがとう」と言われてうれしいから自分も言ってみようとなったらいいなという、少し理想論もあるのですけれども、現実的ではないかもしれないですけれども、多分今ぐるぐるしている中で、もう少しシンプルでもいいのかなと、私個人的な意見でありますけれども、私は、これで通したい派でございます。以上です。

○会長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

副会長、お願いいたします。

○副会長 多分いろいろな意見があるので、そうすると、出てきている話は「したりすることによって」という、例示的に出ているわけですよ。3つの構成要素があるみたいな話ではなくて、こんなこととか、あんなこととか、そういったことを通してという例示だと思うので、そのことを若干強めるということで、「実感したりすることなどによって」として、あとは原文のとおりというのが、いろいろなご意見があったようには思いますが、強い反対もなかったようにも思いますので、その辺りでどうかなと思います。いかがですか。

○会長 いかがでしょうか。例示だという解釈をして、「など」を加えたらどうかということなのですが。

もう少し、会長がこんなことをあまり言うてはいけないかもしれませんが、言葉のことで言いますと、子どもたちが声をかけられて役に立っていると思えるということなので、ある意味、かけなさいということではないかもしれないのですね。もうちょっと言えば、さっき●●委員がおっしゃったみたいに、子どもたちは「ありがとう」と言ってほしいのだと思ってもらえるということも大事なかなと思いますので、そういう意味では、その辺りで、●●委員もご懸念というか、ご心配も当然だと思います。そのことも込みで、この辺りでは議論になって、だけれどもあえてある意味では「ありがとう」という言葉をかけてもらいたがっている、ちょっと変な言い方になりますけれども、かけてもらおうと子どもたちは、自分が認められているし、役に立っているし、うれしいと思えるのだということが皆さんに伝わるということを基本に考えたらどうかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

もしかしたらいろいろな、これを巡って議論になった場合には、そういうことではないのだということをきちんと説明をしておくといったことも、これから必要になってくるかもしれません。特に、いわゆる推進計画を作っていく場合にはそうしたものが必要になってくるかもしれません。そういう形で、原文をあまりいじらないでという形でいかがでしょうか。

それに、副会長の「など」を入れるかどうかですけれども、いかがでしょう。

○副会長 あまりこだわる気もないので。

○会長 そうですね。「たり」「たり」という形で、例示ということに言葉としてはなっていますので、あえて、あまり「など」と入れると、今度は「など」が何だという話になって、「など」に何が入るのだみたいなことになりかねません。行政用語としては「など」は都合のいい言葉だと思いますけれども、あまり多用しないほうがいいかなという感じはするのですが、いかがでしょうか。よろしいですか。

オンラインのお二人もよろしいでしょうか。基本的にはこのまま修正なしで行くということでもよろしいですか。この部分に関しましては。

では、いろいろご懸念もあるということも含めて、ここではこの形です承したという形にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

そうしましたら、次に4ページのところ、先ほど申し上げた最初の大きいくくりの中の下から3つ目のところなのですが、「多様で新たな学びのつながりが生まれることにより」ということのところを「多様で新たな学びの世界が生まれることにより」という形で、つながりということではなくて、もう少し言葉を継いだらどうかというご提案なのですが、この辺りいかがでしょうか。

ここの段落の流れとしましては、学び合って、教え合って、多様で新しい、お互い学び合い、教え合うという関係性ができていく。つながりが生まれることによって、対話的な学びの楽しさが一人ひとりの学びをさらに促していったって、人生100年をいきいきと生きる力をつけていくという、そういうようなことになっているわけです。そこをつながりというだけではなくて、学びの世界のような形で、もうちょっと強調したらどうかというご提案だと思いますけれども、いかがでしょうか。

意味合いとしましては、つながっていくという感覚よりは、むしろ学び合い、教え合うことによって、新しい学びの視野が開けてくるというようなイメージなるかと思うのですが。その辺りでいかがでしょうか。

●●委員、お願いいたします。

○委員 言葉の印象としては、ちょっと世界だと言葉が強過ぎるかなという気はしますね。ニュアンスは今少し、伝えたいことは分かったのですけれども、そうだとすると、世界というともう一つの何かワールドができる感覚があるので。もうちょっと柔らかい言葉なのかなという気がします。

つながりのままか、世界ではない、そういう新しい、環境というか、何かができるということなのでしょうね。世界という言葉は強いかなという気がしました。

○会長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

もうちょっと、言い訳にみたいになってしまいますが、つながりということで、次に行くのは対話的な学びという形になっているので、学び合って、教え合って、つながっていきながら、対話的な関係で、さらに主体的な学びが深まっていくという、そういうイメージで作られているのですけれども、いかがでしょうか。もう少し、新しい学びの世界というか、何か新しいものが出来上がってくるんだというところを少し強調してはどうかというご意見かと思いますが、いかがでしょう。

●●委員、お願いいたします。

○委員 私も原文でいいかなと思うのですけれども、そのつながりということをもう少し考えたときに、学びのつながりにするか、学びによるつながりにするか。いずれにしても、「つながり」という言葉はあってもいいのかなと、この全文を通して「つながり」という言葉が強調されているので、あえてこれを取る必要はないかなと思います。

○会長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

●●委員、いかがですか。

○委員 これも私からご意見させていただいたのですけれども、強いものではないのですけれども、学び合い、それから教え合いと、これ相對の話があって、非常にいいことだと思うのですね。そういうことを通して、何か新しいふわっとした夢を見られるようなものがその先にあるといいかなとちょっと感じたものですから、皆さんで少しご議論いただければうれしいかなという程度です。

○会長 いかがでしょうか。●●委員、お願いいたします。

○委員 ●●委員のお話を聞かせていただいて、多様で新たなひらめきが生まれることによりなどちょっと、生まれてくる、わくわくしたものにつながるような意味

では、少しぼやけてしまうかもしれないのですが、「ひらめき」のような言葉を使うのもいいのではないかなと考えました。以上です。

○会長 ありがとうございます。この学び合い、教え合うということで、何か新しい、それこそ視野が広がって、新しい視点が得られたり、自分が変わっていくという感覚がどこかに得られるようなということだと思いますけれども、それはひらめきのような言葉で表したらどうかというご提案かと思えますけれども、ほかにはいかがでしょうか。副会長、お願いいたします。

○副会長 僕は、これはこのままでいいのではないかと思うのですが。というのは「多様で新たな学びのつながり」というのが、その次の「対話的な学び」につながっているのだと思うのですよね。ここはイコールの関係になっているので、その意味において、違う言葉にしてみると「対話的な学び」というのがちょっと浮いてしまう部分が出てくると思うので、このままの文章が、意味のつながりとしてはいいのではないかなという気がします。

○会長 ●●委員、お願いいたします。

○委員 今のご説明、了解しました。

○会長 ありがとうございます。●●委員、いかがですか。

○委員 すみません。思いつきで言ってしまったので。私も原文のままでいいと思います。

○会長 すみません。撤回しろと言っているみたいな感じで、申し訳ないのですが、いかがでしょうか。よろしいですか、これで。

では、この原文のままで、「学び合い、教え合いの中で、多様で新たな学びのつながりが生まれることにより、対話的な学びの楽しさが一人ひとりの主体的な学びをさらに促し」という形で、つながっていくような文章ですので、つながりのままでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

○委員 いいと思います。

○会長 ありがとうございます。

そうしましたら、最後ですけれども、この「贈り合い」という、この「おくり」という言葉をここで使ってある、プレゼントという意味で贈呈の「贈」が使ってある部分と、両方の意味を込めて平仮名にしてある、贈呈するということの意味と、さらに伝えていくという意味の「送」のほうの2つの意味を兼ねて、どちらかに決

めかねるので、平仮名で「おくる」という、受け止めた方がそれをご自身なりにどう受け止めるかということにお任せするみたいな面があるわけですが、平仮名で「おくる」というところがあるのですが、これに関してはいかがでしょうか。

例えば、4ページにもこの「おくり合い」というのがあります。例えば、真ん中の四角「ちがいを認め合い、自分らしく生きる」の第3段落ですけれども、「その積み重ねが多様な背景を持つ人々が交流し、思いをおくり合い」、この「おくり合い」は平仮名になっています。それから、さらに、例えば5ページの一番下の4の「学びの成果を贈り合う」というところは、プレゼントをするという、贈呈の「贈」になっています。

さらに、ほかに、7ページにも「贈り合う」という場所がありますけれども、この使い方でよいのか、それとも「贈」の言葉も平仮名の「おくる」にするか、何かその辺りでご意見ありますでしょうか。

では、●●委員、お願いいたします。

○委員 この文章をさっと読んだときに、「おくる」というところで大いに意見交換をしてきたところですが、結局「おくる」という「贈呈」の「贈」を平仮名に置き換えたことで皆さんの意見がまとまりましたが、この最終案のところ、
「学びの成果を贈り合う」のところの「おくり」がプレゼントの「贈」になっていて、平仮名というよりも、漢字で統一したほうがよかったのかなという思いがあったのと、でもやっぱり分かりにくかったというところから平仮名にしましょうというになっている。

だったら、「おくる」ではなくて「伝える」というふうに、「思いを伝え合い」のほうが分かりやすいのではないかと思ったので、そのように意見を出させていただきました。ただ、「伝える」にしてしまうと、贈るという感謝とか、その気持ちを込めて伝えるという部分がカットされてしまうと思ったので、ここは「思い」というものをおくる、そこは平仮名になっている。「成果」についてはプレゼント、そういう分け方をしているので、原文のままでよいのだろうか。皆さんのご意見を伺って、もう一度検討していただけたらと思いましたので、よろしく申し上げます。

○会長 ありがとうございます。いかがでしょうか。事務局と話し合いをしながら決めてきたところもあるのですが、今の●●委員がおっしゃったように、学びの成果を自分のいろいろな気持ちを込めて人に渡していくという意味でこの贈呈の「贈」

を使えないかと。思いを伝えるという意味で「おくる」を使うときには「送」のほうでもいいかもしれないけれども、やっぱりそこにもいろいろな思いがこもるかもしれないので、その意味では平仮名の「おくる」という言葉にしましょうかとしてきたのですが、使い分けはしたつもりではいるのです。

ただ一つ問題が残ってしまうのは、同じ表現のところで違う表記の仕方になってしまっているので、読むときに引っかかる方がいらっしゃるのかなという懸念もあるのですね。「ここで『贈』だったのに、何でこっちは平仮名なの」と思ってしまったりですとか、そういうことが起こると読みにくいものになってしまうかなという懸念もあるのですが、その辺りも含めて少しご意見をいただけますでしょうか。

●●委員、お願いいたします。

○委員 私は、今まで皆さんと話し合ってきた、物を贈る、心を贈るという、「贈る」という漢字のほうをすごく大事にして話し合いが進められていたので、私たちの思いは本当に自由におくり合うという意味で平仮名になっていると思うのですけれども、初めてこの文章を読んだときに、統一していないのは何でかなと、そこが気になるのかなと感じます。

私自身の意見としては、区別したい気持ちは非常にあるのですけれども、読み手としたら、もしかしたら統一したほうが、贈るという気持ち、プレゼントの贈るという気持ちが伝わるのは「贈る」で全部統一したほうが、もしかしたら分かりやすいのかなと感じました。

○会長 ありがとうございます。いかがでしょうか。●●委員、お願いいたします。

○委員 私も、多分初めて読んだ方がこれを見たときに、4ページのほうは平仮名になっているのですけれども、これ漢字にし忘れていると多分思うのではないかと。これは素直に。今まで多分こういう話し合いに出ているので、こういう意見が出て、なので5ページの贈呈のほうの「贈り合う」という漢字を使うこと自体も、その意味も特に書いてないではないですか。今話し合いではこれはプレゼントをするという意味の贈り合いでこの漢字にしたというのは私たちは知っているけれども、初めてこれを目にした人は、多分分からないですけれども、私の意見としては「ここは漢字にし忘れている。贈り合うはこの字なんだ」となってしまうのではないかなとは思いました。なので、統一するのであれば統一したほうがいいのか。「こんな大事な資料なのに漢字を間違えちゃってるじゃん」と思う方もいるのではない

かなというのと。せっかくすてきな、意味がすごくいい、プレゼントという意味を込めてこの漢字にしたというのも、すごくいろいろな思いを込めているので、そうしたらこっちのほうの漢字に統一して、強くしてもいいのかなと思いました。

何でこの漢字にしたのかという注釈があってもいいぐらいの選ばれし漢字なので、統一したほうが、読む側としては、気にしない方はもちろんいるとは思いますが、個人的にはそう思いました。以上です。

○会長 ありがとうございます。いかがでしょうか。使い分けというところまで、読んでくださればいいのですが、ちょっとそこまで行かない場合に引っかかってしまうことがあるのではないかと。

もう一つは、一般にはこの贈呈の「贈」は使わないので、ですから、これがあることの意味がうまく伝わらないのかもしれないということもあり得ます。もし必要であれば何か注釈をつけるとか、ある意味では、思いを込めて伝えていくものとして私たちは議論しましたみたいなことがあるといいのかもしれませんが、その辺りも含めていかがでしょうか。

●●委員、お願いいたします。

○委員 一つとしては、例えば5ページの4番の「成果を贈り合う」、最初は平仮名表記なので、「おくり合う」と平仮名で書いて、括弧漢字の「(贈り合う)」と2つ書くと、「間違えているんじゃないんだな」ということは分かってもらえるかなと思いました。

○会長 そうしますと、全部平仮名にしておいた上で、括弧で漢字を入れるという形になりますか。

○委員 例えば、この4のところ、漢字が出てくる。そのところを最初のところに、最初の太字のゴシックのところを平仮名、括弧漢字で「(贈り合う)」と書いておいて、あとは平仮名表記で。要するに、2つの意味があるんだよということを暗示できないかなと思いました。

○会長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

ほかのところは全部平仮名の「おくり合う」のままでということですね。

●●委員、お願いいたします。

○委員 おくり合うの、多分前の言葉は2種類あるのですかね。思いをおくり合いということと、また学びの成果を贈り合うというところで。

4ページの「思いをおくり合い」というところは、私も普通に見たら変換忘れだろうなと思うだろうなとひとつ思いました。

「学びの成果を贈り合う」は、やはりプレゼントの「贈り」で私はいいと思います。そのときに、「思いをおくり合う」というところに、おくり合いという言葉を使ってしまっているのが多分混乱が起きるのかなと思っていて、ここはもし使うなら思いをプレゼントとして贈るのか、あるいは思いを伝え合うみたいな、贈るではない違う表現にするか。「おくり合い」の、何をおくるかというところが両方に使っているため、もしかすると混乱になるのかなと思いました。以上です。

○会長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

●●委員、お願いいたします。

○委員 私も「学びの成果を贈り合う」というこの漢字には、大変深くて大きな意味があると思うのです。初めて見た方は、「あれ、どういう意味かな」と多分迷われるというか、初めて聞く言葉だから、「学びを贈り合う」はどういうことかと深く考えてくださると思うのです。

今、●●委員がおっしゃられたように、4ページの「思いをおくり合う」のほうを違う言葉にすることはできないでしょうか。その下の「誰もが社会の創り手として生きる」の中には「思いや考えを出し合いながら」と書いてあるのですね。思いをおくり合うのと思いや考えを出し合うというのは、ちょっとニュアンスが違うから同じことを言っているのではないのかもしれないのですけれども、いっそここの「ちがいを認め合い」のところの「思いをおくり合い」を「思いを伝え合い」にして、その下の「誰もが社会の創り手として生きる」のところの「思いや考えを伝え合いながら」というふうに、思いや考えのほうは「伝え合う」で統一するのはいかがでしょうか。そして「学びの成果を贈り合う」のほうは漢字のままにする。以上です。

○会長 ありがとうございます。いかがでしょうか。「おくり合い」というのを2つ使っているため、もともとは思いを「おくる」というのも「贈」のほうを使っていたり、「送」を使ってみたりといろいろあったのですが、なぜ迷ったかと言いますと、当然思いもいろいろな形で伝えるということがあって、プレゼントということも含めてということが入ってしまうかもしれないので、それでいわゆる伝え合いだけではなくて、むしろ平仮名で「おくる」という形にして、受け止め方はそれぞ

れであっていいのではないかという判断をされたと思うのです。

「成果を贈る」というのは、これはきちんと学んだことをみんなに分けていくとか、プレゼントしていくという意味でこの贈呈の「贈」が使われているのですけれども、その思いのほうを少し、「思いをおくり合う」のところを例えば「思いを伝え合い」ですとか、何かに変えたら、ほかの言葉に変えられないかというご提案ですけれども、ほかにはいかがでしょうか。

もう少し言いますと、例えばその思いを「おくる」といったことがどんなイメージになるかということもあるかと思うのですけれども、自分が思っていることや考えていることを伝えていくということだけではなくて、むしろお互いが交流し合うみたいな、ただちょっとその前にも「人々が交流し」が入っていますから、また混乱するかも知れませんが。例えば「思いを交わし合い」みたいな議論になるか、その辺りがもう少し、ほかの言葉に置き換わるのであれば、そのほうが読まれる方もつまづかなくていいかなという印象もありますけれども、いかがでしょうか。何か、こんな言葉がいいのではないかというご提案はありますでしょうか。

●●委員、お願いいたします。

○委員 ここも言葉の選び方のところだと思うのですけれども、別な言葉で整理されると、むしろ「成果を贈り合う」ということが逆に引き立つなという気はしています。

今、会長がおっしゃった交わし合いというの、その前に交流というのがあるので、ちょっとそこと重なっちゃうかなという気もしますけれども、思いを交わし合いというのも一つの表現かなと思いました。

○会長 ●●委員、お願いいたします。

○委員 僕は、やっぱり「思いをおくり合い」はすごく大事にしたい言葉だなと個人的には思っていて、というのは、この教育ビジョンは言葉の話せる人たちだけのものではないですよね。障害があって言葉が話せない人、こういうふうに言葉を伝えられない人、交わすことができない人。やっぱりそこに「おくり合う」という、何かほわっとしたところがあるということ、
「共に学び共に支え共に創る」というところから、「共に」ということを考えたときに、この「おくり合う」という言葉はすごくいい言葉だなと思っているので、そこは個人的には大事にしたいと思います。

○会長 ありがとうございます。いかがでしょうか。

●●委員、お願いいたします。

○委員 平仮名で「おくり」と書くとどうしても「送」の漢字を想像してしまうとか、それで先送りだとか、手放すだとか、そういう意味が出てきてしまいますよね。ですから、「学びの成果を贈り合う」ほうは、この「贈」のほうでいいと思うのです。みんなの「しあわせを創る」ということを大切にするというビジョンなので、その学びのつながりということを目的とするために、単なるリレーではない、学びの循環をするという意味でのこの「贈」。感謝も返ってくるということも多分あるのだと思うのですけれども、「贈」を使う。

だとすると、前ページの「思いをおくり合い」のところは、平仮名にはちょっとしづらいなと。「贈」を使うかということ、またそこもどうなのかなということ、先ほどからご意見があるように、違う言葉を入れるとすると、ここは「ちがいを認め合い、自分らしく生きる」という項目なので、お互いの思いを認め合うとか、そういうことなのだろうなと思うのですけれども、この文章の中に「認め合う」がやたら出てくるので、そうすると、思いの共有だとか、ちょっとまた別の言葉を選んだほうがいいのかもかもしれませんけれども、そういう意味合いの言葉で変更したほうがいいのかいなと。

この多様な背景を持つ人々が交流して、そしてお互いに認め合う。認め合うではない言葉でということ、何かいい言葉があればそういうふうに変えると、「おくり合い」を連続して違う表記で使わなくて済むだろうなと、今お話を聞いていて思いました。

○会長 ありがとうございます。いかがでしょうか。

例えば、学びの成果というところは贈呈の「贈」で統一しておいて、思いということに関わっては、その都度少し違う言葉で表現をしていったらどうかということかと思えます。

実は「思いをおくり合い」というような議論をさせていただいたのは、●●委員がおっしゃったこととも関わるのですが、気にかけているよですとか、大事に思っているよというようなことをお互いに交流し合うとか、伝え合うといったことを基本に何か考えられないかということで、「思いをおくり合う」という言葉を入れてみて、皆さんに少し議論していただいたのですが、その意味では、ほわっとし

た感じというか、「思いをおくり合う」という、そこからイメージされるものが大事なのではないかなというイメージもありました。その辺りでいかがでしょうか。

もし、使い分けていくということになると、その都度その都度その文脈の中で思いとは一体何かといったことを規定していくことになりますので、それも一つのやり方かと思えますけれども、ほわっとした感じにはならないかなというイメージもちょっとどこかにあるのです。ほかにいかがでしょうか。

ただ、最初に申し上げたように、読む方が引っかかってしまうと、ちょっとまた読みづらくなってしまうというのはあるかなと思うのですけれども。

副会長、いかがですか。

○副会長 ●●委員や会長がおっしゃった、多義的であるということのよさは皆さん認めているところですよ。唯一問題になっているのは、変換忘れと思われないうまいかという、その部分なので、そこはどう考えますかね。

だから、注をつけるとかおっしゃったような、もしくは括弧して2つの漢字を入れるという手もありますけれども、それも煩瑣はんさになりますし、今回の文章は、そういう意味では通常の行政的な文章とは違って、少しイメージを膨らませたり、共有したりする部分が多いものになっているような気がしますので、変換忘れと思われる危険は踏まえつつ、多義的であることをむしろ重視するという手もあるかなと、そのほうがいいのではないかなという。

ちょっと変えると、その多義性が失われていくというデメリットがむしろあるのかなという気はします。

○会長 ありがとうございます。いかがでしょうか。このままで、受け止める方々にお任せをするという感じになりますけれども、その方々が「おくる」という言葉を聞いた、または見たときのイメージで受け止めていただければいいのではないかということにもなるかと思えます。いかがでしょうか。

何か変だよねという話になるかもしれませんが、「贈る」もこの「贈る」だしみたいな、またこっちが変換忘れではないのかみたいに最初は思われるかもしれませんが、いかがでしょう。読んでいかれるうちに、何となく「そういうことなのかな」と思ってもらいたいなという気持ちもあるのですけれども。

●●委員、お願いいたします。

○委員 最初、キャッチフレーズといいますか「大切にしたい教育」の「みんなの

しあわせを創る杉並の教育」というところに、サブタイトル的に「学び合い、思いをおくり合い、夢つむぎ出す」という、この3つの言葉がありました。それが今回一つずつ、この文章の中に入っていて、そういうふうにもこの中に取り込んでいたのだなと私は受け取ったので、やはり「思いをおくり合い」という、それは言葉を変換せずにこのまま残したほうがいいのかなと思いました。

この次に推進計画が作られるかと思うのですけれども、そこでどのようにこの「おくり合い」というところの意味づけというのですかね、そこを解き明かしていただければいいのかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○会長 ●●委員、お願いいたします。

○委員 あと、この5ページの最後の2行目の「こうした学びの成果を贈り合う」というところの「贈り合う」を鍵括弧で囲む。ちょっとここは変換間違いとかそういうのではなくて、あえてこの言葉を使っていますよというサインを送る。

○会長 「贈り合う」の「贈り」のところですか。

○委員 それも、「贈り合う」のところを、「成果を『贈り合う』」でもいいかなと思うのですけれども。

○会長 あえて強調して、あえて使っていますよというふうに見ていただくと。

○委員 要するに、わざとですよという。

○会長 いかがでしょうか。●●委員、お願いいたします。

○委員 先ほど●●委員がおっしゃったように、私も、もともとキャッチフレーズの「学び合い、思いおくり合い、夢つむぎ出す」という3つのコンセプトがもともとあって、前回これを議論しましたけれども、その意味では、4ページのほうの「思いをおくり合い」は平仮名で残してもいいのかなと思いました。

その上で、5ページは鍵括弧をつけるかということ、どちらかということ強調するとか、読む人が引っかかるのは平仮名の4ページのほう。5ページのほうは別に漢字に変換されているから、これが間違いとは思わないと思うのですけれども、引っかかるとしたら4ページのほうだと思うのです。

今の議論の結論としては、これはこれで次の実行計画であったり、あるいはここで議論をしてもらうことも含めて、特に解説もなくこのままの表現。結論としては、4ページも5ページも原案のままでいいのかなと思いました。

○会長 ありがとうございます。それでよろしいでしょうか。

時間も大分気になっていまして、すみません。では、原案のままという形でよろしいでしょうか。

あと、実は、最後のところ、7ページになるかと思いますが、このビジョンという形で出させていただくものが教育振興基本計画なのですけれども、このビジョンでは、新しい取組として、具体的な数値目標みたいなものは書かずに、基本的な考え方ですとか思いを基本的には述べておくことにとどめておいて、最終的にこの、7ページの第3段落、最後のところですが、このビジョンは実は区民の皆さんが育てていくものなのですよというふうに書かれてあるのですね。

その意味では、行政が何かサービスとして達成する教育のあり方なのではなくて、区民の方々がこれを育てていっていただきたいという思いが込められていますので、その意味でも、今の議論、そうしたものを、区民の方々の中でまた活発に議論をしていただくことで、よりイメージを豊かにしていただくというか、思いを伝えることが期待されています。例えば「思いをおくるって一体何なの」、「それはこういうことじゃないの」という形で、皆さんにいろいろ議論をしていただく。その中で、ここで語られていることがより豊かになっていくというものにしたいという願いが込められています。そのことも含めて、出しておしまいではなくて、むしろ出したところから、区民の方々がこれを豊かに、育てていっていただけるもの。10年後の杉並の教育が、より子どもたちがいきいきと生きられるようなものになっていくという形で、お願いをしたいということになっています。その辺り意図も込みでご了承いただいて、区民の方々にお出しをするときには、その辺りもきちんとお伝えをしていくということが大事ではないかなと思いますけれども、いかがでしょうか。これでよろしいでしょうか。

●●委員、お願いいたします。

○委員 全く別件で、21日までには間に合わなかったところがあって、私、基本構想の答申案を読んで、言い回しなので皆さんが全然気にならないよと言えば修正は要らないところなのですが、2か所ちょっと気になる場所がありまして。

1か所目が、2ページの上から4行目の「(ソーシャルインクルージョン)を基本に据える必要があります」というところと、それから、もう一つが5ページの一人ひとりが云々という最初の3行の「心がけることが大切です」とあるのですけれども、基本構想のほうは、ほとんどみんなアイメッセージで終わっているのですね。

何かこれはユーメッセージに聞こえるような感じがして、ちょっと押しつけがましいというか、そんな印象を基本構想と読み比べたときに思ったものですから。皆さんのほうで大丈夫ということであれば全然気にならないのですが、その2か所の表現、結び方が気になりました。

○会長 ありがとうございます。表現のところなのですが、今の、アイメッセージか、ユーメッセージかということになるのですけれども、例えば、2ページの上から3行目から4行目にかけてのところ、ダイバーシティと、それからソーシャルインクルージョンのところがあるのですが、「基本に据える必要があります」と。あなたに対して上から目線で必要だよと言っているような感じを受けるということですか。それから、5ページの「心がけることが大切です」となっていて、これも何となく上から目線みたいな感じに受け止められるのではないかという、表現の在り方なのですけれども、その辺りでいかがかということなのですが、いかがでしょうか。

ここもなかなか、相談して作っている側としては、これは我が事なので、我が事として必要なのですよと言っていると私は受け止めてしまっていたのですけれども、我が事として大事なのだというふうに、みんな一人ひとりにとって我が事として必要だし大事なのだと言っているのでこういう表現なのかなと思っていたのですが、その辺り、皆さんのほうの受け止めはいかがでしょうか。

●●委員、お願いいたします。

○委員 確かに基本構想のほうを見ると、何とかしますとかそういう表現が多いのですね。もし、5ページのほうをアイメッセージに変えるのであれば、「以下の5つを日常的に心がけることを大切にします」とか、そのような表現ということでしょうかね。

ここはそうですね。ちょっとすみません、私は、どちらがいいというのは今の時点では判断できないのですけれども、確かにそういう表現もあるなということで、皆さんのメリット、デメリットを伺って判断できればと思います。

○会長 いかかでしょうか。大きくは今の2つですかね。2ページの「必要があります」というところと、「大切です」というところなのですが、例えば、5ページであれば「大切にします」と、私たちがそうしますというふうに変えるということだと思いますが、いかがでしょうか。●●委員。

○委員 2ページのほうは「必要と考えます」とか、ちょっとトーンが弱まってくるという感じはしますけれども。

○会長 いかがでしょうか。そのように表現を変えるということでもよろしいでしょうか。「必要と考えます」ということと、「大切にします」という表現ですけれども、いかがでしょうか。よろしいですか。

では、ここの表現は少し変えさせていただいて、2ページのところの「多様性と社会的共生を基本に据える必要があります」を「据える必要があると考えます」。そして、5ページの3行目「以下の5つを日常的に心がけることが大切です」ではなく、「心がけることを大切にします」ということでもよろしいでしょうか。

よろしいですか。そういう形で少し文言の修正をさせていただくという形にしたいと思います。事務局のほう大変かもしれませんが。

○教育委員会事務局次長 すみません。1点だけ。こちら「大切です」というところが、Ⅱ番も全て「大切です」という表現に合わせているのですが、こちらは「受け入れ合うことが大切です」を「受け入れ合うことを大切にします」と、全部同じような形に統一するということでもよろしいですか。

○会長 どうでしょう。私も気づかなくて申し訳なかったのですが、いかがでしょう。ほかのところを全部同じように変えるということで、どうでしょうか。

●●委員、お願いいたします。

○委員 一番上は確かに「します」でもいいと思うのですが、途中途中は、結論ではなくて、論理を組み立てるときの説明な気がするので、逆に5ページの1番とか2番とか「ことを大切にします」とすると、文章がつながらない気がします。途中途中に多分ロジックとして「大切です」、なのでこうですみたいな形に説明が続いているので。確かに全部チェックしないといけないのですが、1番、2番、3番、4番の途中に出てくる「大切です」というのはそのままでもいいのかなという、印象としては気がしました。

○会長 ●●委員、お願いいたします。

○委員 私も同じで、途中の「大切です」というのはひとつ事実の確認みたいな、そんなニュアンスもあるので、これは「心がけることが大切です」というアクションを大切にしろと言われていたような、そんな印象をちょっと私は感じたものですから申しあげました。

○会長 いかがでしょうか。では、事務局お願いいたします。

○庶務課長 II番の最初なのですけれども、「大切にします」としてしまうと、主語と述語の関係がちょっと合いにくくなってしまうかなという印象があるので、確認していただければと思うのですけれども。

○会長 それもありますね。文章もありますけれども、いかがでしょうか。

●●委員、お願いいたします。

○委員 確かにそうですね。今事務局の方のご指摘どおり、「大切にします」であれば、「私たちは」みたいな主語に係らないといけないので、確かに主語と言葉が繋がらないなという気がしました。

そういう意味では、一旦ここまで作った表現を生かすのであれば、「大切にします」ではなくて、ここも「大切です」のままでも。もし「大切にします」という場合は文章自体を作り変えなければいけないので、このままでいいのかなと感じました。以上です。

○会長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。時間も大分気になってはいるのですけれども、いかがでしょう。

先ほどの「必要があります」といった部分もそのままそうかもしれませんけれども、いかがでしょうか。

●●委員、お願いいたします。

○委員 それが正解がどうかもよく分からないですけれども、例えば、「以下の5つを日常的に心がけることが大切と考えています」とか、そういう言い方はいかがでしょうか。

○会長 全ての人たちが心がけることが大切だと思います、みたいな感じになるわけですね。

●●委員、お願いいたします。

○委員 最後、言葉遣いのところだけになっていると思いますけれども、そういう意味では、今の●●委員の言葉を生かすと「心がけることが大切だと考えます」とかですかね。1つの提案として。

○会長 いかがでしょうか。ニュアンスの問題になってしまいますけれども、私たちが作って、私たち全体でこれを共有しながらやっていくものとして、今回はこのように考えていますという表現にするかですね。または、自分たち自身にとって必

要だし、大切なのだと言い切るかということだと思いますけれども、その辺りでいかがでしょうか。

副会長、お願いいたします。

○副会長 今回のこれは、杉並区の教育ビジョンとして、ある意味施策の方向性の視点を示すものでもあると思うので、その意味でやはり言い切ったほうが、ちょっと「考えます」だと、施策の原理を示すものとしては弱くなるのではないかなという気がするのですが。このままでもしかしたらいいかもしれないですね。

○会長 ●●委員、いかがですか。

○委員 時間がないということであれば、それは別にこだわりませんので、大丈夫です。内容には全く異議はありませんので。

○会長 時間はまだありますけれども、もしどうしても大事であれば変えるべきだと思いますけれども、いかがでしょう。

基本的には教育ビジョンという形で区民の方々にお示しをしながら、区民の皆さんで育てていただくということも含めて、私たち自身がこうしますよと、こうしたいのですということ強く出しておくということで、この表現でよろしいでしょうか。

ありがとうございます。では、これはこのままにさせていただくということで、よろしく願いをいたします。

ちょっと長くなりましたけれども、ここまでで今までいただいたご意見に関する審議を終えたこととなります。基本的には修正なしで、教育長に答申という形でお渡しをするということになるかと思います。どうもありがとうございました。

予定ですと、45分から儀式が始まるということになっておりますので、あと少しの時間がありますけれども、いかがでしょうか、少し委員の皆さんのほうから、この間の審議会ですとか、議題の中身ですとかに関して、少し感想ですとか、さらには今後推進計画を作りますので、それに対するご意見等がもしありましたら少し伺いしたいとは思っているのですけれども、いかがでしょうか。ちょっと十分に時間が取れるかどうか分かりませんが、ご意見といいますか、感想がおありでしたら、ぜひお出しただければと思いますけれども、いかがでしょう。

●●委員、お願いいたします。

○委員 感想をシェアさせてください。これまで7回ありがとうございました。こ

の案の中で、5ページの「一人ひとりが教育の当事者として心がける視点」の5つ、これはこれまでの議論を通じて非常にいいものができたかなと思っています。

これを読んでいて思ったのは、この審議会自体がこの5つを実現してきたのだらうなというところですね。子どものアンケートを取ったりとかを含めて、思いを尊重して、それぞれの委員の皆さん、それぞれ立場も違って、背景も違う、知っていることも違うと思うのですけれども、お互いの違う意見を言いながら、和を大切に、学びも成果は別に、学びは勉強したことだけではなくて、経験したこととか、保護者はこう思っていますとか、学校の先生はこう思っていますみたいな、それぞれの経験のある意味シェアして贈り合って、そしてこのビジョンとして社会を創る当事者として考えていきたいということで、この委員会自体の在り方を書いてあって、すごいなと思って、改めて読み直していました。

以上です。ちょっと感想をシェアさせていただきました。

○会長 どうもありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。●●委員、では、お願いいたします。

○委員 全7回、大変勉強させていただきました。心から感謝申し上げます。本当に私は第1回からすごく教育に対して問題意識が強過ぎてしまって、何か発信しなければいけない、今の現状を変えなければいけないと、息まいてしまっていたのですが、先生方のお話だとか、委員の皆様のお話を聞いて、そうではないんだ、目標は達成するためにあるのではないんだ、PDCAでちゃんと回していかなければいけないとか、そういうものではないのだということが、非常に勉強になりました。

そして、一つ言わせていただければ、私、受験生の母でもあったので、今の現実で行われている教育と、今回の新たな教育ビジョン2022が、多分現状とかけ離れている部分が非常に大きくあると感じています。実際に教育推進計画などに移っていく中で、現場の皆さんが、先生方とか、子どもたちが困ってしまわないような形で、実現していければいいなと思います。教育に携わる皆さん、区民の皆さんが本当にウェルビーイングに取り組んでいければと、非常に強く感じました。本当にありがとうございました。以上です。

○会長 どうもありがとうございます。いかがでしょうか。本来であればお一人ずつ全員にお聞きしたいのですけれども……、全員にお願いしましょうか。●●委員、いかがですか。

○委員 今日来るときに●●委員とエレベーターで一緒になりまして、「いよいよここまで来ましたね」というようなことを言ったのですけれども、本当にここまで来たなという感じでした。

私自身なぜここに携われたかという、杉並区立の杉小P協という会長を令和2年度にやらせていただいたのでこの場にいさせていただいているのですけれども、それがなかったら本当に普通の主婦というか、普通に子育てに奮闘している一保護者でして、このようなすごい皆様とこういった場で一緒に話ができるというのは、本当に自分の中でも、人生の中でもないと思いますし、いい経験をさせていただきました。

一つ感動したのは、子育てをしている身としては、子どもたちのためにこういった杉並区ってたくさんの大人たちが子どもたちのことをすごく考えてくれているのだなと、すごいいろいろな動きがあるのだなというのは、改めて感じました。杉並区の保護者というのは、子育てに対して熱心な方が多いなというのを感じました。

ですが、現実的に仕事をしている共働きの親も今増えてきていて、PTAなんかなくしたほうがいいという声もありますし、朝夕登下校の見守りパトロールも各校あると思うのですけれども、年1回でも仕事の都合がつかないからできないという方もいたり、自分の子は自分で守るからいいという声も実際あるというのを聞いて、時代によってどんどん変わっていくと思うので何とも言えないのですけれども、こうしてこういったこのビジョンをきっかけに、みんなで作っていくというのが少しでも一人ずつの気持ちが強くなっていったらいいなという思いをすごく感じました。

自分ごとなのですけれども、主人は杉並区で生まれ育っていて、自分の子どもを同じ小学校に入れたいという思いがあって、息子は自分の父親も、おじいちゃんも出た、3代で同じ小学校を出ているのですね。やっぱり地元愛がすごく強くて。なので、こういったビジョンの中で育った子どもたちが大きくなって、大人になって、自分の子どもたちも同じように地元で育てたい、杉並区で育てたい、そういった思いが強かったら、地域のつながりとか、みんなで作っていくという、今なかなか難しくなっているつながり、かかわりというのが自然とできていけるといいのかなと感じました。

そんな中、本当にこれに携われたことを今、すごく自分でもとても感謝していま

す。ありがとうございました。以上です。

○会長 どうもありがとうございました。●●委員、お願いできますでしょうか。

○委員 本当に関西人で、杉並区でそういうのをやっているのとみんなに言われるぐらい浮いていたと思うのですが、本当に杉並区の考え方がすごく柔軟で、こういう私みたいな発言も聞いていただいて、そういう柔軟性が教育のほうにもっともっと広がっていけば、この場の空気が現場に伝わっていくということが理想なのではないかなと思います。

そういう窓口として、こちらのほうがあって、すごくいい会に参加させていただきましたし、私も参加したときよりも、今回この終了する今のほうがかなり教育に関して成長させていただきましたし、勉強になりましたし、違う考えを入れるということは、知識が入って情報が入るということは、本当に夢が広がりますし、子どもたちにとっても、知らない知識や情報をたくさん知ってもらうことで夢を広げてもらいたいと思うので、大人になってもそういう気持ちが私はこの場所で持てたので、そういうふう知識や情報がたくさん新しいものが与えていけるような杉並区になっていただいて、子どもたちに本当に夢がたくさん、杉並区だからこそ持てましたという環境ができていくといいのかなと思いました。ありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございます。●●委員、お願いいたします。

○委員 どうもありがとうございました。12月のシンポジウムで会長のお話の中で、「センス・オブ・ワンダー」という言葉を聞いたのがずっと心に引っかかっていて、今回の教育ビジョンの根底にある重要なキーワードなのだろうと、私なりに考えていました。

「みんなのしあわせを創る」ということを考えて、それを今後10年間みんなで行き組んでいくといったときに、これも昨日の会長の言葉をお借りすれば、楽しさが駆動する、そういうことが最も大切なことなのだろうと思います。

私自身に置き換えて言えば、今後また地域とともに、わくわくする学校づくりに取り組んでいきたいなと思いました。以上です。

○会長 どうもありがとうございます。●●委員、お願いできますでしょうか。

○委員 ありがとうございます。本当に私も学びが深まったと思いますし、前回の教育ビジョンの策定から関わらせていただいて、すごく進化というか、「共に創

る」というところで終わったところが、今度一つステージが上がって「しあわせを創る」という。「しあわせを創る」とことと教育ということが結びついているメッセージはとても大事なと改めて思いました。

ですから、本当にそういう意味で、子どもたちだけではなくて、大人がこの「しあわせを創る」ということを自分のメッセージとして引き受けて、また、子どもたちへのいろいろなところに還元できるといいのかなと思っています。今日は本当にどうもありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございます。●●委員、お願いいたします。

○委員 12月の教育シンポジウムの中で挙げた区民の皆さんのご意見、それから、子どもたちの思いというものが、この7回の審議会を通して形にできたということ、をまずはうれしく思います。

以前から話にありますように、今回のビジョンは具体的にこれを目指すとか、これに取り組むという書きぶりではなくて、これまでの教育ビジョンとは趣が違っている形になっています。大切にしたい教育とか、それから、心がける視点という言葉に象徴されるように、区民のみんなの思いというスタイルで作られたこの新しい教育ビジョンということで理解をしています。理念を重視したということなのだと思えます。ですので、それを学校ではどのように進めていくのかということところが、校長にとってはこれから責任重大だなという思いでおります。

今後出される推進計画は、恐らく教育委員会としての具体的な取組も書かれることだとは思いますが、学校としてはより自由度の高い中で、この「しあわせを創る」という理念をどのように実現させていくのかということ、ここに各学校の教育活動の工夫が進めていけるのではないかなと、前向きに捉えたいなと思えました。ありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございます。●●委員、お願いいたします。

○委員 最初の頃は、本当に私自身どう関わっていったらいいのだろうというところで深く悩んだこともあったのですが、回を重ね皆さんのご意見を聞きながら学ばせていただき、最終的にこのようなビジョン案ができたことを大変うれしく思っております。

皆さんと話し合っていく中で、私は青少年委員なのですが、これからの教育というところでは、より学校以外のところでの関わり、大人たち、地域の関わり

というものがすごく大切だなと感じましたので、私たち青少年委員としても、その理念を深く理解しながら、子どもたちと向き合って、学校、地域とも助け合い、子どもたちの教育に携わっていったらいいなと感じております。

これから作られる推進計画の中で、学校側はそれを踏まえて活動されて、運営されていかなければいけないので、また今までとは本当に違うものができてるのだらうと思いますので、そこをわくわくした気持ちで、楽しみにしながら、実現に向けて協力していきたいと思います。いろいろ本当にありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございます。●●委員、お願いいたします。

○委員 皆さん、どうもありがとうございました。この会に参加させていただきまして、まず自分が経験したことのないような多方面の皆さんのご意見をお聞きできたということは、本当に私自身学ばせていただいたと思います。

地域の立場からこの会に出させていただいたわけですがけれども、今まで見えなかったところが本当に見えてきましたし、PTAの皆さんのお子さんに対するものの考え方ですとか、なかなか日常的には私たちもダイレクトには聞くことができませんでしたので、様々な問題点、ご苦労なんかも理解することができました。

そうした中で、7回、こういった審議会を経て、「しあわせを創る」ための教育をみんなで考えられたということは、本当に私たちも含めてしあわせなんだなと考えています。元来、杉並区は皆さん教育に対する意識が高く、以前こんなことを聞いたことがあります。杉並言葉というのがあるって、昭和の頃の杉並で教育に熱心であったお母さんたちから出てきた言葉とのことでした。そのように一つの文化になるほど教育に対して熱心な土壌が杉並には培われてきているということです。この審議会を通して、一つひとつ丁寧に審議を積み重ねることができたことも、区民の教育に対する高い意識と責任に後押しされてのことであると感じています。

今後更にすすめるコミュニティ・スクールでは、先生、保護者、地域とそれぞれ立場の違う人たちが教育のために集まっています。「子どもたちのために」と広い意味での思いは一つですが、物事を進めようとした時に各々の判断や考え方の基準は異なり、それらの課題を乗り越えなければなりません。今回策定したビジョンにあるように、お互いのちがいを認めあい、対話を深め理解し合うことで良好な学びの環境ができればと思います。

今回こうして作ることができたこの新しい教育ビジョンを、私も地域の皆さんに

もご説明したいと思っています。どうもありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございました。それでは、●●委員、お願いできますでしょうか。

○委員 大切な最後に仕事の関係で駆けつけられなくて申し訳ありませんでした。会長の水先案内のおかげで、すごく深い呼吸のビジョンができたのではないかなど実感しています。こんなに言葉の細部までこだわった審議会のようなものは、私は初めて出ました。こういうものに何回か出ていますけれども。こんなに言葉の細部にこだわったというのは、初めて出会いました。その背景にそれぞれのお立場の専門があって、お立場があって、私もすごく学びになりました。対話にあふれた審議会で、対話を重ねる中で着地点を見出すという一つのモデルになっていると思いました。ここからまた、区民の皆様とたくさんの対話が生まれるといいなと思って期待しています。本当にありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございます。では、●●委員、お願いできますでしょうか。

○委員 皆さん、ありがとうございました。このスタートからのところでは、将来を予測することが困難な時代になってきているというところで、あるべき子ども像ということではなくて、子ども観というところ、まさに子どもは大人の従属物ではなくて、一人の人間として、人格の主体として尊重されるべきものである。生活と人生の主人公であることや、幼いながらも社会の重要な構成員であると、こういうような子ども観をしっかりと持っていく、こういったことを大事にしていくということから、今回も前例踏襲ということでは、それはもう無理だというスタートのところから、今回このビジョンの中では、構成も目次も大きく変わり、「私たちが大切にしたい教育」と「一人ひとりが教育の当事者として心がける視点」ということで、しっかりと示せたというところ。そして、当事者としての心がける視点ということでは、まさに我々一人ひとりが意識を大きく変えていかなければいけないというところが、今回の会長の本当にリーダーシップの下に、このような一人ひとりの意見がここに重なったビジョンが作れたというところに、私もそこに参加できたというところでは、大変誇りに思えることでありました。これからも、またよろしくお願いしたいと思います。ありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございます。それでは、副会長、お願いいたします。

○副会長 もう皆様おっしゃったことですけれども、本当に、私も含めて好きなことを皆さんが言って、これでまとまるのだろうかという感じがあった中で、見事に事務局の方たちと、それから会長のお力で、しかも修正意見を丁寧にとっていただく中で、合意できるモデルが出来上がったなという気がしています。事務局の方、9時、10時まで残られてみたいなのも伺いましたので、多分背後にはすごいご苦労があったのだらうと思います。

ただもう一つ、これは推進計画が現実と理想との間のギャップをどう埋めるかという意味ではすごく大きな役割を担うということになるのだらうなという気もしています。●●委員がおっしゃったようなありがとう運動ではなく、自然と「ありがとう」が言い合える、言いたくなるような、そういう教育の環境はどうしたらできるのだらうかとか、多分そのちがいを受け入れなさいという説諭ではなくて、ちがいが自然と受け入れられるような、例えば、そうすると恐らく私たちがやっているようなことでいえば、様々な方たちが取り出されるのではなく、一緒に学ぶみたいな環境をどう整備していくのかみたいな、環境整備、環境をどうつくるのかというところから、恐らくこの推進計画が充実されていくということが、今後大事なのだらうなという気もしているところです。参加させていただいて、非常に勉強になりました。ありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございました。時間が来てしまいましたけれども、最後に一言、私のほうからもお礼を申し上げたいと思います。

このビジョンの審議会に座長として関わらせていただいて、私は、皆さんの議論をお聞きしながら考えていましたのは、ちょっと難しい話になるかもしれませんが、自由と平等ということだったのですね。

難しい話はしませんけれども、簡単に言いますと、自由にものが言えるというのは一体どういうことなののだらうかと思えますと、これは勝手なことを言うということではなくて、皆さんが他人のことを考えながら自分の意見を言うことによって、より大きな自由になっていくのだということではないかなと思ひながら、皆さんのお話を伺い、さらにこのビジョンがそういう形になっていくといいなと思っておりました。そして、皆さんのご議論の中で、見事にそういう形になっていったのではないかと思います。

さらにこれが今後、区民の方々に共有されていく中で、これは「しあわせ」をつ

くるということが求められているわけですがけれども、皆さんがお互いにおもんばかりながら、相手のことを考えながら自分の意見を自由に出し合うことによって、よりよいものになっていく、それこそが本当の社会の在り方ではないかなと思えました。

そういう意味では、今回こちらに参加させていただいて、新しい社会の在り方を垣間見たような気がしております。恐らくその一つの形がこのビジョンではないかなとも受け止めております。皆さんにご協力いただきましたことをとても感謝しております。どうもありがとうございました。

それから、事務局の方々も、今副会長からもお話がありましたが、夜中に電話がかかってくるのですね。それで、もう早く寝てくださいという形で、電話は遠慮してくださいと言ったことがあるぐらい、私なんか申し訳なくて。その意味では、そこまで苦勞されて作られたということですので、ぜひともこれをいい形で推進計画に反映させていただいて、杉並の教育をさらに次へ進めていただければと思っております。ぜひともよろしくお願ひしたいと思ひますとともに、お礼の言葉にさせていただきますたいと思ひます。どうもありがとうございました。お世話になりました。

それでは、時間が来てしまつて申し訳ないのですが、最後になりますが、事務局から今後のスケジュールを簡単にご説明いただいた上で、この答申、ビジョンを教育長の白石先生に手交したいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○庶務課長 スケジュールですが、今日、本日答申をいただきますと、直近、7月の教育委員会に諮りまして、その後、議会の文教委員会に報告した後、パブリックコメントを8月に予定しております。パブリックコメントでいただいたご意見等を踏まえて、秋をめどに最終的な決定をしたいと考えております。

また、これまでの審議会において、教育ビジョンと推進計画の整合性を見る機会があればといったお話もいただいておりますので、その辺りも踏まえまして、今後も適宜、委員の皆様には情報提供させていただきながら進めていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○会長 ありがとうございます。

それでは、今後、次へ行かなければいけないのですがけれども、このビジョンを区民の方々にお伝えしていくという過程で、今ちょっと企んでいることがあります。

何かといいますと、できれば小学校や中学校に行つて直接話がしたいなと思つて

おりますので、ぜひとも教育委員会のほうで実現できるようにお願いをして、そこに委員の皆さんも、ぜひともお時間があればご参加いただいて、直接みんなの声が反映しているのだということを語りかけをしていただきたいなと思っております。全く、これは私の勝手な思いですので、実現するかどうかは分かりませんが、ぜひとも実現させていただきたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○庶務課長 最後に答申の手続がありますので、今お配りさせていただきます。

(答申(案)配付)

○会長 これからですけれども、ビジョンを答申として教育委員会にお渡しするということになります。

今お配りをしましたけれども、「答申(案)」というのが出ております。こちらの形でよろしいかどうか、最後に皆さんにご確認をいただいた上で、この「(案)」を取って、白石教育長のほうにお渡しができればと思います。いかがでしょうか。

(拍手)

○会長 どうもありがとうございます。それでは、この「答申(案)」の「(案)」を取って、答申としてこれから教育長のほうにお渡しをしたいと思っております。よろしく願いいたします。

○会長 答申。令和2年10月29日、貴教育委員会から当審議会に諮問のありました杉並区教育振興基本計画である「杉並区教育ビジョン2022」について、鋭意審議を重ね、結論を得ましたので、別添のとおり答申いたします。

令和3年6月25日。杉並区教育委員会様。

杉並区教育振興基本計画審議会 会長 牧野篤。

(答申手交)

○会長 それでは、今、答申が教育長に手渡されましたので、教育長から一言ご挨拶をお願いしたいと思います。お願いいたします。

○教育長 長い間、ご審議、本当にありがとうございました。ただいま、会長より、皆さんの総意としての答申をいただきました。

もちろん、私も全ての会をここで見させていただいて、皆さんの意見を聞かせていただきながら、このように熱心に一つひとつの言葉にこだわりながら議論をいただいた、まさに杉並でなければこういったことはできないのではないかと、本当にうれしくも、本当に頼もしくも思ったところであります。

話したいことは山ほどあるのですが、このまましゃべっていくと大変なことになってしまいますので、一つだけ。今回のビジョンは、現ビジョンを確実に土台として、基盤として、その上に積み上げられたものであります。今のビジョンは「共に学び、共に支え、共に創る」という、いわゆるいろいろな人の力をプラスして教育をつくり上げていこうという足し算のビジョンだと我々は説明してきました。このビジョンの前は、学校選択制等の学校間の差を取る、いわゆる引き算の考え方でした。そして、今回のこの新たなビジョンは、引き算、足し算という世界から、掛け算という二次元の世界へ間違いなく広がっていくものだと思います。「しあわせ」という曖昧ではあるけれども、とても分かりやすく、具体的な言葉だと私は思っています。

全ての子ども、大人、全ての人がかこうしたみんなの「しあわせを創る」ことになれば、世の中はもっともっとよい世の中になるのではないかなと、大きな期待を皆さんからいただいたと感謝をし、最後、お礼の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。

○会長 どうもありがとうございました。それでは、全体の進行が遅くなってしまって申し訳ありませんが、これで全体の議事を終えさせていただきたいと思えます。

最後に、記念の集合写真を撮りたいということですので、ぜひともよろしく願いいたします。あと、オンラインの方もぜひ入っていただけるように、画面がありますので、にこやかにお願いいたします。

— 了 —